



2002年5月対中国投資環境調査ミッションの団長として。最前列左から5番目・角谷正彦前中小企業金融公庫総裁、6番目・愈曉松中国貿易促進委員会会長、7番目・筆者、8番目・朱鎔基中華人民共和国首相、9番目・阿南惟茂駐中国大使、10番目・王毅中華人民共和国外務次官（現駐日大使）、11番目・副団長の渋谷進瀧谷工業専務。（肩書きは当時）

5年前、釣魚台国賓館で

畠山 襄

(財) 国際経済交流財団 会長

5年前の5月末。当時JETRO（日本貿易振興会）の理事長だった私は、威海、北京、重慶、成都と回る、中堅・中小企業の対中国投資環境調査ミッションの団

長として北京の釣魚台国賓館にいた。これから朱鎔基首相が我々総勢65人全員と会ってくれるというのだ。

型どおり中央の小さなテーブル

の、向かって右に朱鎔基首相が、左に私が並んで座り、日中合わせて100名近くに達するなかなかの大会議が始まる。中国側での会见実現に尽力してくれた愈曉松中国貿易促進委員

会会長（当時）から事前に「朱鎔基首相は『日中友好が大切』というような当たり前の話で時間をつぶされるのが大嫌いなので、話は具体的にするように」とアドバイスを受けていた。そこで私は挨拶を短めにして、例えば「新聞報道によると中国は1年以内にASEANと自由貿易協定（FTA）の枠組み協定を結ぶと報じられています。事実でしょうか」などと具体的に質問した。朱首相は秘書官の助けも借りず淀みなく答えた。

「仰る通り中国はASEANと協定を結びます。しかしこれはFTA自体ではない。その枠組み協定は正確ではない。結ぶのは『年内に』です」

13億の民を治めているこの国の首脳が、FTAについてここまで詳しく知っていることに大変驚いた。上の写真は、中国が熱心な西部大開発や2008年の北京オリンピックの話も出て1時間に亘った会談の後、中国側が撮ってくれたものだ。中央の朱鎔基首相から見て右隣に私、その隣に愈曉松氏、次にこの調査団の顧問をお願いした角谷正彦前中小企業金融公庫総裁、朱鎔基首相の左隣に阿南惟茂駐中国大使、次に王毅外務次官（現駐日大使）、次に副団長の渋谷進瀧谷工業専務などの顔が見える。私だけでなく、多分日本側出席者全員の思い出の一葉である。

